

一般社団法人日本子どもの本研究会 2018年度事業報告（案） （2018年4月1日～2019年3月30日）

はじめに

一般社団法人日本子どもの本研究会は2017年5月17日に法人となり、引き続き体制の整備をすすめてきた。また今後予想される財政状況の逼迫などを考え、原稿料改定などの節減を提案し、事業の合理化を進めてきた。創立50周年を機に創設された「実践・研究賞」「作品賞」は、2018年は全国大会が九州福岡開催であったこともあり、6月17日の総会のあとに時間を取って授賞式を執り行った。受賞者の皆さまがたには多数ご臨席賜り、心に響く受賞の挨拶をいただくことができ、大変充実した会となった。この時間をもっと多くの会員と共有できなかったことが残念であった。「永年会員」は該当者がいなかった。

A. 事業結果の概略

1. 図書選定事業

- 選定委員会は2018年4月1日から2019年3月末までに計24回開催
- 選定総数 1,217冊（対象外20冊を含む）
- 新刊紹介のために 225冊を選び、機関誌に紹介文を掲載または掲載準備中
- 選定委員は12名

2. 機関誌発行事業

- 2018年4月～2019年3月まで、No594-No605 計12号を発行
- 編集委員会は月1回、年間12回開催。編集委員は6名。
- 新規定期購読者数 25名

3. 各賞選考と表彰事業

- ① 第2回実践・研究賞 2017年10月に募集開始、2018年1月末を締切
 - ◇ 実践・研究賞 「障害と本の研究部会」（代表 菊地澄子）『障害に関することを描いた子どもの本のリスト』の作成
 - ◇ 奨励賞 地域に根ざす子ども文庫をめざして（清水鉄郎）
第3回は2018年10月より募集開始。
- ② 作品賞 2017年12月より選考開始、2018年4月に確定
 - 『八月の光 失われた声に耳をすませて』（朽木祥作／小学館）
 - 『ながいながい骨の旅』（松田素子文／川上和生絵／桜木晃彦 群馬県立自然史博物館 監修／講談社）
- ③ 永年会員表彰は該当者なし

《特記事項》日外アソシエーツ発行の『最新文化賞事典』および『最新文芸賞事典』に、上記「実践・研究賞および作品賞」の情報が掲載されることとなった。

4. 研究出版物の発行事業

50周年記念誌を2019年度中に発行する予定で、2018年より編集作業開始。

B. 事業実施状況

1. 全国大会開催事業

第50回全国大会「福岡大会」は、8/20・21日の2日間 福岡県北九州市のActiveResorts 福岡八幡にて開催された。参加者は延510名（会員78、一般257）で、宿泊は181名であった。以下に主な記念講演以外のプログラムを挙げる。

講座 ワークショップ(7)	子どもの本屋	探究的な学び	デジタルブック	マンガ
	アニメーション	読書会	ビブリオバトル	
夜のつどい(5)	読み聞かせ・ブックトーク		語り	紙芝居・平和
	辞書で遊ぼう	福岡の部屋		
分科会(10)	乳幼児と本	子どもと読書	特別支援と読書	学校図書館
	絵本	小学生と読書	中高生以上の読書	地域の読書活動
	科学	地球絵本を作るう		

九州福岡支部を中心に組織された全国大会実行委員会の機動力によって、大会は内容も充実し大成功をおさめた。また北九州コンベンション協会より助成金をいただくことができた。なお今年度九州からの入会者が多いことは、これらの活動の幅の広がりをも裏付けるものと考えられる。

2. 研究活動事業

名称	日程	会場	参加者
子どもの本の学校 みなと校	4/28～6/23 計5回	港区生涯学習センター	222名
	2018年度は「子どもの本のこの1年をふりかえって」「子どもの本の選び方一心にズシンと届く本を紹介していますか?」「0,1,2歳の絵本・おはなし・わらべうた」「学習マンガ 今これから」「小学校高学年男子にもアピールできる科学の本」など、参加者の関心に添ったテーマで、大変好評を得た。ボランティア研修に位置付けられ、品川・府中図書館に加えて世田谷図書館からも公費での参加が増えた。幅のある年齢層に向けた講座内容が評価された。「高学年、中学生向けの本について学ぶ機会が少ないので」と、要望があった。		
東京セミナー	10/14 午前午後	国立オリンピック記念青少年総合センター	238名
	1. これからの「読書」とは 2. 0.1.2歳と読書 3. 本の作り手と話そう 4. 障害と本 5. 「今の世界は“じぶんごと”」中学生とSDGs 6. 地域と読書 7. 豊かな子育てに本を 8. 子どもの本の書評とは 9. 本との会いを工夫する 10. ブックウェビング 11. ノンフィクション読書会。11の催しに分かれてセミナーを開いた。2019年全国大会への中継ぎとして多くの方が集まる有意義な会が持てた。閉会全体会の講演で本研究会の今後を展望した。		
子どもの本の学校 多摩校	9/29～12/15 計5回	多摩市関戸図書館	144名
	子どもにより良い読書環境を願い、2018年は子どもと本の出会いの場を作る工夫をテーマに講座を組み立てた。アニメーションをどう作るか。絵本のメッセージから感じた憲法。科学で遊ぼう。学校図書館から始まる学び。		

	図鑑を楽しむ。様々な切り口から子どもと本とを出会わせる工夫に迫るものとなった。参加者は現場を持ち実践をしている人たちが増えた。今後も魅力ある多摩校を企画し参加者を広げたい。		
会員研修	2/24 午前午後	国立オリンピック記念青少年総合センター	57名
	「物語を楽しむ力」をはぐくむ幼年文学ーひとりで読む子を育てるには？ー小学1～3年生を中心にー		
学校図書館のつどい	実施せず		

3. その他の事業

① 支部の活動 現在 16 支部が登録。

活発に活動をしている支部もあるが、休眠となっている支部も多く、支部の活動をどのように支援していくかが課題の一つである。2018年度は福岡支部の大活躍で大会が成功しただけでなく、多数の九州在住会員が増えたことは特筆に値する。

② 研究部会の活動

現在 10 部会(絵本、児童文学、ノンフィクション、子どもの科学の本、障害と本、学校図書館、マンガ、多様性と読書、ヤングアダルト&アート・ブックス、理論)が活動中。理論研究部は 2018 年度をもって休会となる。

C. 団体運営状況の概要

1. 会員に関する事項： 今年度新規入会者数 32 名（うち福岡県からの入会が 9 名）
退会者数 36 名（内ご逝去数 1 名） 2018 年度末会員数 477 名

新規入会はここ 10 数年でもっとも多かった。一方退会者およびご逝去に伴う退会者はここ 2・3 年では少ない方だったが、それでも入会を上回る状況が続いている。2019 年に会員歴 45 年を迎える宮川ひろさんが惜しくも年末にご逝去され、葬儀には会員も多数参列した。

2. 財政に関する事項

- ① 税理士事務所と顧問契約を結び、定期的に経理事務処理の指導を受け、適切に処理する体制ができた。
- ② パソコンメンテナンスとネットワークシステム等のサポート契約をし、テクニカルサポートを受けやすくした。

3. その他に関する事項

- ① 理事会開催：2018 年 6 月、8 月（福岡）、11 月、12 月、2019 年 2 月、3 月、4 月、5 月の計 8 回
- ② 事務局会開催：2018 年 6、9、12 月、2019 年 3、4 月の計 5 回

D. 今年度の成果と次年度への課題

《成果》

1. 福岡大会が成功し、九州在住の会員が大幅に増えた。
2. 子どもの本の学校「みなと校」「多摩校」および「会員研修」が、充実した内容で開催された。
3. 東京セミナーが新たな実行委員を中心に成果を上げた。
4. 「子どもの本棚」が、会員減少にも関わらずコンスタントに新規購読者を増やした。
5. 事務所運営を合理化・効率化し、経費削減ができた。
6. 夏の全国大会で子どもゆめ基金助成を申請した。
7. (公社)全国学校図書館協議会の第49回学校図書館賞「運動の部」応募に取り組んだ。

《課題》

1. 引き続き会の安定財政確立に向け、会員増をはかり、外部からの資金確保に努める。
2. さらに事務処理の効率化を図る。
3. 当会の特色を生かした催事の工夫と、ニーズの分析に基づいた見直しをすすめる。
4. 今後も催事を東京に限らず、全国展開する。